

読んでみませんか = 中学生のみなさんへ =

ハラハラドキドキしてみない？

イグアナくんのおじまな毎日

佐藤多佳子 / 著 中央公論新社 [913 サ・B サト]
パパの大叔父の徳田さんからの「プレゼントに恐竜なんてほしくないかね。」という問いかけに「生きているヤツならほしいな。」といった樹里。11歳の誕生日に樹里がもらったのは生きているイグアナでした。こうして、パパとママと樹里の「イグアナくんのおじまな毎日」がはじまったのでした。



この湖にボート禁止

ジェフリー・トリーズ / 作 福音館書店 [933 ト]
お母さんと一緒に、都会から湖の山荘に引っ越してきたビルとスーザン。見つけたボートで湖にこぎだしたら、島の持ち主にとめられました。なぜ、いけないのか？その秘密をさぐるため、二人の探検が始まりました

自然を見つめて

南極のコレクション

武田剛 / 著 フレーベル館 [402 タ]
ぼく武田剛は、南極で一年を過ごす初めての新聞カメラマンです。観測船「しらせ」に乗り込み、ひと月の航海を続けて南極大陸の昭和基地へ到着しました。カメラマンのぼくが目撃した白い世界やペンギン、アザラシたちやオーロラなど美しい南極のさまざまな表情を伝えます。



世界の子どもたちを知ろう！

ぼくはマサイーライオンの大地で育つー

ジョゼフ・レマソライ・レクトン / 著
さ・え・ら書房 [289 レ]

「ライオンを恐れなくて、夢を持ち続けてください。」 - ぼくは、アフリカのケニア北部で暮らすマサイ族に生まれた、13歳で成人となり、14歳ではじめてライオンに向き合った。 - マサイ族の伝統を重んじながら、アメリカの大学でも歴史を教えている作者の自伝です。



三つの願いーパレスチナとイスラエルの子どもたちー

デボラ・エリス / 著 さ・え・ら書房 [228 エ]

世界には、いまでも紛争が続いている地域があります。パレスチナとイスラエルもその一つです。この本には、二つの地域の子どもたちの真実の声が集められています。自由に外に出られない、銃を持った兵士に見張られている。 - そんな生活、考えられますか？



挑戦してみよう！

どうしてかわかる？

ジョージ・シャノン / 文
ピーター・シス / 絵
晶文社 [908 ド]

世界の各地に伝わる、ゆかいな「なぞかけばなし」。読む楽しさと謎解きのおもしろさが、ダブルであじわえます。いくつわかりましたか？わからなかったら・・・最後のページへGO！

